

制度施策部会より

今年度の制度施策部会では「改めてセンターの役割について考える」を目的として、各センターが担当している圏域の強みを調査するべくアンケートを実施しました。

そして集約した情報を基に各センターが実施している地域意見交換会へ部会スタッフを派遣し、来年度に向けた準備を進めてきています。

来年度は、全センターを対象に本格的な圏域交流を行い、各圏域の強みをそれぞれの地域でも取り入れられるような機会として展開していきたいです。

制度施策部会長 八木原 直彦

研修部会より

研修部会では、今年度「ナカポツの在り方を学ぶ」をテーマに研修を実施しました。大阪府高槻市への視察研修を行い、スタッフ研修では高槻市ナカポツセンターの森川氏より講演を頂き、地域連携の実践や工夫を学ぶことができました。

また、全国就業支援ネットワーク第26回定例研究・研修会には連絡協議会を代表してピア宮敷の隈井氏が参加し、得られた知見を連絡協議会内で共有しました。来年度も共通理解の深化と職員のスキル向上を目指した研修を企画してまいります！

研修部会長 申美娟

広報部会より

これまでの数年にかけて、「ホームページ・パンフレット・広報誌」をリニューアルしてきたことから、今年度は「より充実した発信ができるには？」という視点で部会活動に取り組んで参りました。使用する中で、もう少しここが…と気付いた部分を修正しながら、協議会の活動をより分かりやすく、タイムリーに発信するようにも取り組みました。次年度も部会活動をより充実したものになるよう、取り組んでいきたいと思っております。

広報部会長 金木 隆裕

特別部会より

特別部会は令和7年度10月より開始した福祉サービス「就労選択支援事業」について、16センターに協力いただき千葉県内の実施状況リストを作成と、各圏域のナカポツセンターが地域において必要な動きが取れるよう情報共有を図りました。

また、「障害者雇用代行ビジネス」の調査アンケートを協議会HPへ掲載することができました。2月10日には全国就業支援ネットワークのナカポツフォーラムでもこの調査について発表しました。

特別部会長 鶴岡 裕太

特別支援学校との連携に関するワーキングチームより

今後の活動について、特に2つの事柄について注力していきたいと思っております。

まず1点目は、卒業3年の支援体制についてです。これまで、卒業後3年間は特別支援学校の先生が就職後の定着支援を担うことが基本とされてきました。卒業後マニュアルにもそのように記載されています。

しかし、実際に先生方にそのような余裕があるのでしょうか？我々としては在校生としっかり向き合い、進路について共に考え、アセスメントを行い、ご本人や保護者と話し合いながら「この企業が一番合っている」と思える就職先を見つけることに注力していただき、就労後の支援や生活面での相談については、ナカポツセンターが担うなど、明確な役割分担が必要だと考えています。この点について、今後さらに議論を深めていきたいと思っております。

2点目は、特別支援学校の先生向けセミナーの開催についてです。次年度も特別支援学校の先生方と情報を共有するセミナーを、8月21日（金）場所TKPガーデンシティ千葉にて行う予定です。

これまでのセミナーでは、主に進路指導を担当されている先生方の参加が中心でしたが、次年度はぜひ担任の先生方にもご参加いただきたいと考えています。より多くの先生方と意見を交わし、連携を深めていければと思います。

特別支援学校ワーキングチームリーダー 向日 宏一

就職するなら明朗塾

藤井さんのつぶやき

こんにちは！就職するなら明朗塾の藤井です。前回のつぶやきから、早6か月…。年度末の忙しい時期をお過ごしかと思っております。

今年の冬は大寒波の影響などで、寒さが厳しく、インフルエンザなどの流行もあり、あわただしい冬だったような気がします。そんな中、春を「今か、今か」と待っているものも多いのではないのでしょうか。

前回のつぶやきにも紹介しましたが、光明会では今年度もスパークリングワインを醸造し、完成間近となっています。光明会の畑でお客様と一緒に栽培したブドウを使い、2年目となる今年のスパークリングワイン。昨年、飲まれた方もまだの方も是非ご賞味あれ！（笑）



編集後記

私の地元「南房総」の冬から春にかけて、海では「はばのり（皆さん知っていますか？）」の収穫や今はひじき狩りをおこない、山では「枇杷」の袋掛けや、田植えの準備もあちらこちらで見られるようになります。

机に向かってしていると気付けない季節の移り変わりを、少しでも感じられる「心の余裕」を持てるように、年度末を過ごしたいと思っております。

広報部会長 金木 隆裕



千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会
事務局 ☎ 0436-36-7762 FAX 0436-26-7090

〒292-0067 市原市今富 1110-1 障害者就業・生活支援センター／ふる里学舎地域生活支援センター
E-mail: fg.shien@yukeikai.jp URL: http://www.chiba-centernw.com/

千葉県障害者就業・生活支援センター 連絡協議会だより

広報紙
第31号

令和8年3月6日発行

【発行元】

千葉県障害者就業・生活支援センター

連絡協議会 会長 藤尾 健二

令和7年度を振り返り、次なるステージへ

——「就労選択支援」の本格運用とナカポツの真価——

令和7年度も締めくくりの時期を迎えました。振り返れば、米国トランプ政権の始動に伴う関税政策や為替変動など、世界経済の荒波に翻弄された一年でもありました。国内においても物価高騰が定着し、さらには大雪や極端な乾燥による大規模な山火事などの災害も頻発するなど、私たちを取り巻く環境は依然として予断を許さない状況が続いています。

このような激動の社会情勢にあっても、私たちが支援する方々の「働く・暮らす」日常は、途切れることなく続いています。一人ひとりの人生に真摯に向き合う姿勢が、これまで以上に問われていると強く実感しております。

今年度、当協議会が最も注力してきたのは、関係機関とのさらなる連携強化です。

障害者雇用の「質の向上」が叫ばれる中、法定雇用率の段階的な引き上げに対し、現場からは対応の限界を訴える切実な声も届いています。長年、雇用維持に真摯に取り組んできた企業ほど疲弊し、結果として「雇用代行ビジネス」が拡大していく現状には、強い危機感を抱かざるを得ません。「障害者雇用促進制度の在り方に関する研究会」においても、「雇用の質」に関する議論が、いつの間にか「雇用代行ビジネスの在り方（ガイドライン）」へとすり替わっているような違和感さえ覚えます。

こうした中、令和7年2月に開催した「千葉県特例子会社連絡会との合同研修会」では、これまで以上に深い関係構築を図ることができました。雇用企業と支援機関が一体となって「雇用の質」の本質を追求していくことこそが、今求められている支援の姿ではないでしょうか。

令和7年10月にスタートした「就労選択支援事業」は、次年度に本格的な定着期を迎えます。しかし、多くの自治体では未だ「様子見」の段階にあるのが実情です。先行地域での運用から見てきたのは、やはり「中立・公正」な評価と支援の重要性でした。本格始動までの期間は、決して静観すべき時ではなく、支援のあり方について徹底的に協議を重ねるべき貴重な準備期間であるはず。当協議会では、各圏域の実態をきめ細かく共有し、この新事業が地域の支援力を真に底上げするものとなるよう努めてまいります。

私たちはこれまで、地域における「基幹型」としての役割を追求し、ネットワークを構築してきました。就労選択支援という新たな仕組みが動き出した今こそ、培ってきたネットワーク力を存分に発揮し、制度を「本来あるべき姿」へと導く時です。

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会は、次年度も地域の支援力向上に邁進してまいります。皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 会長 藤尾 健二

静岡県の特例子会社連絡会と連絡協議会の合同研修に参加して

11月28日(金) 静岡県障害者就業・生活支援センター連絡協議会と静岡県特例子会社連絡会の合同研修会が開催され、オブザーバーとして参加させていただきました。

初めに当協議会の藤尾会長から「障害者雇用の現状と課題について」の講演があり、その中で、お互いに意見交換を重ね、理解しあうことの大切さを皆さんに伝えられていました。

静岡では初めての合同研修ということで、千葉の連絡協議会が参考になり、開催に至ったところが大変嬉しく光栄に思いました。お互い本音をぶつけることで、普段聞けないような話を皆さんとできたようで、真剣に、しかし楽しく話をされていたのがとても印象深かったです。

連絡協議会副会長 西村 拓士



連絡協議会スタッフ研修に参加して

11月7日(金) TKP千葉駅東口ビジネスセンターにてナカポツスタッフ研修を開催しました。今回は「地域連携について」をテーマに、高槻市障がい者就業・生活支援センター所長・森川昌平氏を講師としてお招きし、ご講義いただきました。

当日は16センターから46名のスタッフが参加しました。森川氏からは、「地域連携の必要性・大阪府域18センターの連携体制・ブロック会での取り組み」などについて、丁寧かつ具体的にお話しいただきました。また、講義の合間にグループワークが組み込まれていたことで、各グループでの意見交換も活発に行われ、学びを深める時間となりました。

特に「目指す地域連携とは、その先にいるご本人を孤立させないネットワークをつくること」という言葉が印象的で、地域連携の重要性を改めて認識する貴重な機会となりました。

キャリアセンター 栗原 章泰



千葉県障害者就業・生活支援センター 千葉県特例子会社連絡会「合同研修会」

2月13日(金) トーセイホテル&セミナー幕張にて、千葉県特例子会社連絡会と千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会の合同研修会が開催されました。「障害者雇用と就労支援の過去と現在」と題した情報提供・シンポジウムの後、ナカポツセンターと特例子会社が膝を突き合わせてグループワークを行いました。シンポジウム・グループワークともに、各自が聞いてみたかったことを率直に話し合い、日々、どのようなことに悩んでいるのかを知り、また、それぞれの立場で当たり前と思っていたことが異なることを改めて感じました。お互いの「こんなことも知らなかったのか」を知る機会となり、立場を超えて理解し合うための貴重な時間となりました。

山武プリオ 鈴木 千春



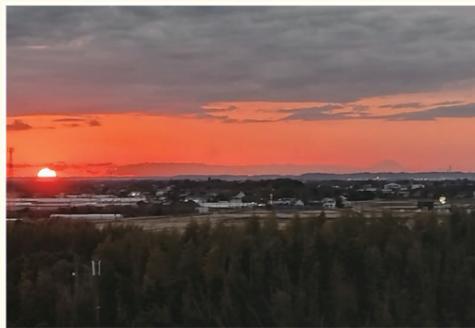
全国就業支援ネットワーク定例研究・研修会に参加して

今年度のテーマは「変わるもの、変わらないもの、あなたならどうする」をテーマに、昨年に引き続き、原点回帰からのナカポツの働き方や障害者雇用の未来を広く考える機会として話題が進められました。「障害自体は変えられない。」だからこそ、環境や地域が障害を戦力化するための視点や支え合う工夫が必要なのではないかと感じました。開催地の奈良は全国でも数少ない雇用率達成している地域です。官民協働の障害雇用と活躍への意識、その努力や姿勢、工夫は学ぶ点があります。各々の就労支援の現在地(いま)を確認しながら、今後に向けた持続可能にしていくためのネットワークを紡ぐ大切さを再確認した研修となり今後活かしていきたいと思えます。

ピア宮敷 隈井 明美



センターの日常 ～東総就業センター～



障害者就業・生活支援センター東総就業センターは、千葉県北東部に位置する旭市にあります。旭市を少し紹介すると「日本の夕日百選」に選ばれるほどの人気フォトスポットが沢山あり、また、自慢のご当地グルメや糖度の高いメロン、水産加工品など美味が集まっています。こちらにお越しの際は、ぜひ旭市を満喫してみてくださいはいかがでしょうか。

さて、沢山の魅力がある旭市に拠点を置く東総就業センターは、1952年創設(昭和27年)の社会福祉法人ザリオの聖母会が母体となっています。法人として23の施設と事業所を構え高齢者や障害を持つ方々と共に歩んでおります。私どもは、福祉施設職員としての専門的役割と使命を自覚し、利用者一人ひとりに適切な支援が提供できるよう、常に自らへの問いかけを怠らず、研鑽と人間的成長に努めております。

当センターの心がけとして「地域における就労のエキスパート」を意識しております！

企業や相談者、関係機関が困った時、また良い報告がある時に「東総就業センターに相談してみよう！話をしてみよう！」と思い浮かべてもらえるような地域に密着し根付いた存在になりたいと思ひ努めております。

私どもセンターは、就労定着のためには仕事と余暇どちらも大切であると感じています。センター主催の研修会「職場定着促進のための勉強会」等の実施、また開設当初から発足の当事者の会「のぞみ会」では、日帰り旅行や新年会、スポーツ大会を実施しています。令和7年度はパンづくり体験、ボウリング大会を行っております。22名の会員と共に職員も一緒に思い出づくりを楽しんでいます♪

年間を通してみると複数の行事を実施しながらの相談業務、日々切磋琢磨している状況ではありますが、心にゆとりを持ちつつ東総就業センター職員7名一致団結してより良い支援を目指してまいります。

東総就業センター 小澤 美代子



チャレンジ事業について

チャレンジ事業とは・・・ 連絡協議会が千葉県より受諾している事業で、「企業向け見学会・障害者向け見学会・職場体験実習」を各圏域にて実施しています。

チャレンジ事業(企業向け見学会)を開催しました

12月4日(木)に君津圏域では君津中央病院企業団君津中央病院にご協力をいただき、企業向け見学会を開催しました。

これから障害者雇用を検討されている企業や関係機関が参加し、現場の方より実際の雇用の状況等のお話を伺い、その後に職場見学をさせていただきました。障害のある方それぞれの特性に合わせた仕事の切り出しをされていて、事務や給食部門等の各部署で活躍されている様子を見ることができました。

参加された方からは「障害者雇用の状況を丁寧に見学させてもらって大変参考になった」「社内に持ち帰り検討したい」「何かあった時に実際にどう対応をしたのかを話をさせていただいて大変参考になった」等、大変好評のお声をいただきました。

お忙しい中ご協力いただきました君津中央病院の皆様、本当にありがとうございました。

エール 池田 美里



チャレンジ事業(障害者向け見学会)を開催しました

2026年2月4日(水)、5日(木)の2日間にわたり、「コクヨサプライロジスティクス株式会社」首都圏IDCの東京都江東区にある物流倉庫の見学会を実施いたしました。

この度参加された延べ人数は、当事者、各支援事業所(移行支援事業所、就労継続支援A型、B型事業所)含め19名です。当日のプログラムは会社説明、通販事業(カウネット)倉庫内作業(D品バラピッキングエリア)の見学、ピッキング体験と質疑応答の流れで終え、参加された当事者側は就労イメージが湧き、また企業側は障害者雇用の促進が図られたイベントとなったのではないのでしょうか。

いちされん 三隅 佑太郎